



可笑記

^ 13
74
2



可笑記

二

曾
74
2

15
74
2

一の矢記巻第二

昔々一越王勾踐吳王少合我乃時人酒指一川流
 多上一多教小を酒と川のあ上へ一をく造り流を
 トめて軍勢の川下へ去てお入此川ありと乃まうあ
 孫小を水酒及味いあう一も流をたう下けあさ
 に名流のくされらるる一かあう一といひて進
 て。力入平をあぎすて我の月を合我の大利と
 故終ふとわ。昔にいつわくさくも水線十二を正月下
 めに甲別長田信玄の駿河國だ川からうに流出陳をて
 今川氏矣る水條又子る津射陳あり。於る海風と作
 一く。ささきしがささきし。信玄の酒指あさるあ

りどのづつとあつて侍とくあらざる理ありがくも
あつて侍とくあらざる理ありがくも
つれてよく救也かくしせばこそ強ふあつて侍は折れた
まふといふわくは方物も善悪ありはつ折用ありたるとい
りくも乃のひらに金もはらへて金一も。折れた
後と意をうて。才命に誤てと命取つたれど。金
子りり世にまてくは金も金と成て。金子は錫石銅赤
銅はまてとてとまもよく金と成れ

昔の侍にすむひらり人ありはちやひ一ては侍
ままの侍は賤老も信倍善悪乃人成るも侍は侍
かぬとくは物かてくはびら一日友乃りの善くは
に女は女とら尋まてくはけらる海さつてさあは

やいなり乃一人は人にたつらぶ侍もさつらひもそま
〜〜〜〜〜人小ま〜〜〜〜〜もそまは侍もさつらひもそま
〜〜〜〜〜し〜〜〜〜〜人ハ〜〜〜〜〜よ。蛇ハ一寸と出
〜〜〜〜〜侍はかた〜〜〜〜〜毎に位あり〜〜〜〜〜くは侍もさつらひもそま
皆人氣をむつ〜〜〜〜〜は〜〜〜〜〜に〜〜〜〜〜は侍もさつらひもそま
〜〜〜〜〜一〜〜〜〜〜は〜〜〜〜〜は侍もさつらひもそま
〜〜〜〜〜ま〜〜〜〜〜は〜〜〜〜〜は侍もさつらひもそま
〜〜〜〜〜海〜〜〜〜〜は〜〜〜〜〜は侍もさつらひもそま
〜〜〜〜〜小〜〜〜〜〜は〜〜〜〜〜は侍もさつらひもそま
〜〜〜〜〜業〜〜〜〜〜は〜〜〜〜〜は侍もさつらひもそま
〜〜〜〜〜あ〜〜〜〜〜は〜〜〜〜〜は侍もさつらひもそま

ともさんとするにまじりては。時こ形こ乃其は投入てると
 くれはふらり。依等氣ね来りしと也。これ方便したあ
 らと果はむを。釈するは。或は揚物にて。斷
 を。肩下に。は。縛く。よ。よ。は。か。げ。ら。横。老。が。側。ふ。た
 と。ん。を。か。さ。あ。さ。あ。は。こ。に。ぬ。く。も。海。江。提。岸。と。掛。へ
 まら。か。ら。さ。へ。い。び。び。た。大。が。勇。ま。さ。た。や。と。く。を。寄。ぐ。く。
 能。決。乃。下。ら。い。甲。と。着。決。裁。らん。の。海。江。お。ひ。り。と。も。
 押。引。して。睡。う。福。ら。ち。敵。は。い。び。形。事。と。ま。と。ま。と。ま。
 と。わ。り。海。江。一。ゆ。い。ん。大。敵。は。く。一。ま。ら。一。

○ 昔と人乃たるも一。時。は。も。味。ま。ら。侍。の。あ。お。化
 て。あ。ら。い。ま。え。う。ら。く。の。つ。り。被。志。敷。女。は。起。り。ま。え。ま。下。江
 ぬ。い。く。べ。し。屏。風。を。ま。じ。か。し。終。一。た。に。よ。い。は。え。ら。い

色紙とんちやくふとねんみ。の。あ。ん。く。名。あ。ら。古。へ
 と。て。ハ。律。第。一。所。用。出。づ。さ。れ。後。作。の。な。さ。ら。う。い。う。せ。名
 も。ま。じ。無。事。は。用。し。ま。の。お。お。ら。い。つ。り。お。く。そ。と。ゆ。り。
 ろ。つ。一。本。と。も。な。ら。い。く。わ。海。江。を。れ。露。潔。つ。し。乃。お。り
 下。も。ま。じ。と。て。ま。ま。し。七。法。お。ひ。ら。く。や。と。れ。い。ま。ら。一。第。一
 ま。ま。海。江。ひ。の。こ。ん。ま。よ。秋。冬。い。い。わ。い。は。も。位。ま。う。物
 づ。ま。ま。何。ま。ま。ハ。動。な。ら。う。く。さ。う。に。場。氣。は。わ。く。う。け。ま。て。
 お。お。新。百。も。の。物。を。い。て。ま。ま。海。江。も。解。ら。い。海。江。も。
 も。も。明。和。せん。た。め。形。う。さ。て。ま。ま。海。江。い。ま。の。場。ひ。ま。
 ま。ら。く。海。江。を。く。血。氣。結。れ。然。わ。ら。い。物。也。海。江。お。ま。け。つ。
 ま。ま。ま。と。海。江。を。い。ひ。あ。ま。い。の。海。江。海。江。く。ま。あ。わ。つ。
 に。ま。ま。づ。例。也。海。江。を。い。ひ。あ。ま。い。の。海。江。海。江。く。ま。あ。わ。つ。

万葉の中にも松竹は記して枝少う懸はんもそのちを
 へんせよと。松竹整乃くさひまふとほりあてと。花咲
 とひも多かれ梅竹東のちとて白尾屯の一室に
 ちと立りあをき白尾山橋の整りあはつと。折
 の末ぬり南白尾松竹乃いし。照くまふへり小舟とり
 あくせごをよくはあしせよとてあつもの漬あれて小
 石まごのいさくくちとて凍りけれ。雪さ氷の
 にらりやとくわふかれ涼くもそんじ。戯真乃馬の
 こわしんれ。又萍乃らひひらるもあし。事の
 らいしんれ。はくし。とて時々のまふ向とあはる
 業はくし。あてられ松竹すれ。即ちくくさる
 石のけがらもきくじ。業場のくさひわさるがま

一平と記しつるまふと。あつ。又うれらまふた
 くらに昔けつとさうくあつりあもさるうらひあり。
 家の天升言はれまふと。炬むりけ。拍子記。
 いふまてその造形づくとさひ。ちりつそのやと。成
 をかんようとして。掃地とんくべし。
 昔きあ人のいつる人。思ふかとわさめ。刈草。相済
 晴へこの世され我言し。あはむとれ。人又あつと
 あはす。わさむれまふと。人又我ふも礼と。これ
 わたしとれ。人又あはれ。踏す。これ。うらひひける。
 人又うらひつと。さあ。がくて。後小。喧嘩。口端。と。出
 し。命。死。な。れ。地。人。乃。怒。む。あ。は。れ。我。と。わ。り。あ。は
 からば。也。可。る。ん。が。つ。こ。う。

○昔は人びとあり是れ人の狂言はつと孫て送つ
らふより神と祈り一編ふまらふと云ふ事とせしむ
夫を只主親と思ひつと船かた家にたされつとよ
とれありや物とん乃場へとよひあはれぬ月夜を
り一編に付てよとて乃田かたにうらとせぬと云ふ
何なりとては男にわらばりてはとてのうらとて
用ありまらわらにけりくやするすにぬていびをくせり
物とて一編をさるとしかけやう人ぬらぬわらとて
みあわく色思くはぬ身かんの物にこころと云ふ
女房乃飛の柳生てんか秋乃こころと云ふ何れ
物とて一編とていびとてして物とていびとては
等してたよとて一編の中は是れうらとていびとては

うらとては女乃かんさうとて一編の袋とてうら
とては女乃かんさうとて一編の袋とてうら
いしくとて一編の袋とてうらとて一編の袋とて
あんなわらぬ物とて一編の袋とてうらとて一編の袋とて
女房乃飛の柳生てんか秋乃こころと云ふ何れ
女房はわらぬとて一編の袋とてうらとて一編の袋とて
いんとて一編の袋とてうらとて一編の袋とて
物とて一編の袋とてうらとて一編の袋とて
おとて一編の袋とてうらとて一編の袋とて
女房乃飛の柳生てんか秋乃こころと云ふ何れ
ひびの袋のりしとて一編の袋とてうらとて一編の袋とて
女房の袋のりしとて一編の袋とてうらとて一編の袋とて

十一
十一

我男けふとつりしるものあしきまゝあつていづる人
もろ子孫をば後世にんつてて他人分てしてきてまじ
母弟乃んふんれりゆいそふかきいりもくわん
くおわのんも園あわしる子孫をさつるをふぶとあつん
○音ふ人あつたうけのあはれりしと神歌のいかにあらしし
て。食きりぐいゝ志あつらんたに同たし吐きて改ま
死ぬへりし時あつらん人生胎内終りて湯まてのま
せくれハ列蘇生ひめてくといひされまよ。一とせ草
をくひて志ぬへりしは。山尾子孫せんして飲今ま
て命あつて大け死をもぬれぬとがなり

○昔中秋の夕あつれいせくつてまゝの月さや
るにじまの國あささの親善へ信たり。魚種たり
毎ふやうりたるを乃たあり。久しく打殺くいりぬ
神の法乃神のまじりたりがくけさうにまんやうりはま
つる。親の要さうまうへんやうなまといひ出たりたりよ
むもは月海を給へりたりあきて

○我も又人乃んれんもものたしまの月へむりありたり
昔唐國乃婁師種とまう子孫たりし毎よ。美姫
歎とせしものまうん歎種たりま時。乃子善てま
けりもむ可しんあん信りり終方はくしてきてま。いん
あつて我がのう海も移く。美姫をまのい孫たりしは
地をいまうそれり乃面へまうれとくけりけりてあ
あつてひて地悪信らんやとま。又けり海空てま。諸
及れりまうそ地悪乃ん地やうりね。まうそまをくれと

○ 間小こ乃一かあり。上の食物中はあぬ。下乃夜露

○ 昔これ乃親のよし相づらひふみあせしつゝなれぬ
あけて。や。之由十子もまづうたう侍あねれ。そ

人乃んご海よりしんごめぬ人。此の今日らふまゝ
あり。うらうら。福さのあまらう。そ。知人ふあて。一程

二程。ちあひ。新し。人よ。そ。んご海より。うら。人
終へ。ま。一。此親親朋友乃。思つ。く。し。の。れ。り

○ 昔よ侍人乃。うら。な。れ。ま。下。に。愛。あ。く。あ。り。と。も。も。
人ともつて。第一。し。人乃中。は。も。士。老。工。高。乃。西。民。と

と。い。て。ま。ま。し。ま。し。の。奉。る。人。老。し。の。百。程。工。の。職。人。高
し。お。き。ん。ど。の。事。は。け。お。乃。の。し。の。推。氏。と。て。何。乃。用。也。も。た

と。ぬ。は。し。蘭。乃。し。し。醫。者。知。志。を。能。く。し。の。し。に。付。て。ま。ま
各別乃。の。ゆ。は。よ。及。く。は。但。荒。蕪。小。ま。て。は。り。鉄。炮。馬

軍用。魚。い。り。志。つ。け。こ。ば。外。用。に。し。の。れ。も。夫。主。乃
え。し。の。様。給。ぬ。ら。い。し。の。奥。の。者。う。う。と。し

○ 昔よ侍人乃。うら。な。れ。世。ら。に。主。意。お。や。く。は。内。乃。志。
どもに。故。の。眼。程。の。思。費。と。あ。る。給。く。は。西。藥。乃。の。し。が。し

乃。様。の。も。か。け。給。ぬ。も。も。し。れ。く。多。程。い。う。の。の。意。
い。い。け。く。忠。忠。を。給。ぬ。も。も。し。れ。く。多。程。い。う。の。の。意。

く。と。志。あ。り。し。て。う。ら。の。先。主。意。乃。内。の。た。は。ひ。の。意。
ひ。が。し。の。志。あ。り。し。て。う。ら。の。先。主。意。乃。内。の。た。は。ひ。の。意。

あ。る。魚。乃。の。志。あ。り。し。て。う。ら。の。先。主。意。乃。内。の。た。は。ひ。の。意。
接。持。の。わ。る。事。あ。り。し。て。う。ら。の。先。主。意。乃。内。の。た。は。ひ。の。意。

隙。あり。何。と。も。い。て。う。ら。の。先。主。意。乃。内。の。た。は。ひ。の。意。
隙。あり。何。と。も。い。て。う。ら。の。先。主。意。乃。内。の。た。は。ひ。の。意。

るにありし。善曰。いふ。善くして。その法。乃。人。の。善。我
 亦。約。又。物。年。に。あ。れ。れ。聖。賢。傳。を。子。を。教。ふ。あ。て。列
 聖。賢。と。な。る。ひ。さ。り。也。何。乃。さ。ひ。さ。り。あ。し。ん

○昔々。と。本。に。十二。三。り。乃。善。ま。た。三。人。也。合。物。後。ら。る。ま。り
 一。人。か。ま。け。ら。い。何。し。を。て。教。ふ。生。れ。増。え。又。乃。か。ん。か。あ。ま。り
 我。乃。以。て。子。孫。繁。昌。思。せ。め。て。れ。と。教。い。れ。ん。又。一。人
 善。の。ふ。あ。る。い。あ。ら。か。い。た。る。ま。り。乃。子。を。て。た。わ。小。坊。と。い
 教。ふ。り。先。こ。を。聖。賢。の。法。の。不。考。と。あり。天。梁。の。う。て。は。し
 さ。教。が。ら。い。思。い。ふ。も。一。て。教。に。生。れ。ぶ。う。ぬ。や。う。か。教。ふ
 へ。一。一。ま。れ。の。善。て。回。り。ふ。人。と。た。り。た。れ。ば。親。の。父。母
 の。心。許。と。し。け。り。も。も。ま。り。子。ま。れ。い。か。し。ん。て。り。ひ。の。ぬ。り
 に。そ。ん。た。れ。も。人。の。い。善。無。乃。の。神。ま。り。と。あ。ら。は。し。た。と。交

る。て。生。れ。る。善。人。の。う。べ。一。せん。ど。ん。の。こ。ま。り。善。一。と。云
 と。わ。難。い。も。い。う。あ。ら。た。無。不。道。人。の。り。た。を。子。を。善。人。あ。し。を
 教。は。たり。ら。又。社。乃。名。は。あ。け。子。孫。繁。昌。あ。は。し。り。わ。り。れ
 牛。け。子。ま。り。あ。ら。い。い。し。一。又。お。わ。小。生。れ。坊。て。い。て。不
 考。に。あり。天。梁。の。う。て。は。し。ん。わ。傳。へ。く。賢。聖。乃。子。大。衆
 か。り。ま。い。由。わ。ふ。めん。乃。は。後。の。親。善。と。ん。と。や。う。ま。り。れ。と。ま
 一。て。病。が。く。も。い。て。名。と。わ。り。一。考。く。考。い。て。子。孫。繁。昌
 之。れ。考。の。乃。始。終。と。い。ふ。と。い。ひ。た。れ。ど。か。ら。う。を。信。童。い。孫
 少。の。以。て。由。て。云。々。の。物。小。善。無。あり。地。陰。陽。日。月。教
 固。父。子。夫。婦。智。者。愚。者。早。の。福。之。れ。り。り。て。ま。り。也。こ
 禮。の。法。善。か。い。ま。り。て。法。の。法。を。こ。ひ。法。也。わ。り。り。て。法
 善。と。た。ま。く。唯。可。不。可。一。條。し。て。依。わ。る。本。法。始。終。と。い。ふ

汝志くむや柳下遊しやし古賢老翁乃此舟小盗磯云
六画不道人有り吾用乃るゆあわくそふるくひ位又敵
ゆふと吾用小やつ積い吾用の用するべし

○青平お城婦の山路乃高申がけに後八ヶ岳五葉此町人
ありけり五葉葉の控すや船より乃飲食とてつと米飯をく
これ汁乃之也乃後八ヶ岳又吉とて人せにあひか
き大むらう里常いのみ後八ヶ岳一むらう秘とてりやう河
ゆのみ者一ゆつと秘とて送る

○賢くもねくぬ城の後八ヶ岳持るかひのわが身こん玉

○青平の人乃るるに位侍のゆふをてりやうとて八ヶ岳はくまうこ
と啼へし位一座乃奥わんてりやうとて吉別とて善いといひは
まへにひきまをりか能くもて善いもてりやうとて生

身もさくひにて城宮衣新装束乃と食持作り守りの敷
あがた具あからに照輝ひとも抱の用にりかた持に内
乃とて抱ひあふ人情のむを能くもてりやうとて好むるれ位
妻とてて持るもり一但一代りぬもりかたの時と
人其は合ふり一人も善いなりとんとねく民善性とた
つひ吟味してあふつと善いあつとてりやうとて善い中へ
妻とててお方お親侍の妻のあ形乃なり
うしぬが能くもてりやうとて善いあつとてりやうとて善い
かこもれぬ人よゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと
あふりとも。世りのおねく人おねく人おねく人おねく人おねく人
とも女にんひゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと
こめねくひしとねへし位お方とて目けりやうとて善い

てとけうしつ。誠小生命と親をれつ。つるは母のこ
ら。根はわけてたきいひたり。乃ほの徳れこも果樹
糸云。八方子業。といひて見たり。人あり。たはひひ
別乃るをたひひも。志あへ。何んか。へん。松樹もつ
ぬいさふ。ぬ根くら。日氣も。い。け。あ。さ。ふ。も。乃業
たの。と。あり。それ。命。六十年。とい。へ。も。せん。十二。海
で。い。どの。何ん。か。も。奇。び。と。て。女。斗。乃。が。い。ん。父。母。見。ん。乃
業。い。の。か。こ。も。や。う。ぬ。は。又。と。年。の。後。の。世。う。り。ぬ。く
づり。却。て。我。子。乃。氣。海。も。う。の。式。に。目。み。あ。す。と。く。こ。こ。こ。こ。こ
く。も。親。い。づ。こ。こ。子。は。う。ぬ。く。ひ。ん。神。お。こ。る。へ。日。く。に。無
う。の。時。月。く。に。悔。悔。乃。を。救。ふ。ひ。と。づ。る。種。子。刑。とい。つ
唐。人。仙。達。河。つ。て。入。て。長。命。形。り。と。陸。勢。親。と。そ。れ

付けり。そて人か。の侍。が。ま。志。作。道。の。射。ま。て。強。小。種。子
を。承。る。は。礼。を。と。ね。あ。つ。り。内。禮。為。志。と。そ。後。と。つ。り。人
と。無。風。ち。い。と。さ。わ。れ。し。志。意。乃。禮。為。の。と。さ。る。と。い。ふ
く。種。まん。乃。無。を。と。り。と。起。義。文。を。う。と。と。遊。後。乃。致
東。戎。の。國。家。の。と。い。ひ。と。も。思。意。を。た。ひ。美。神。歌。の。と。内。禮
家。の。中。又。の。侍。業。を。乃。禮。為。の。海。よ。う。と。い。ふ。と。そ。つ
き。侍。人。と。つ。り。だ。ぬ。と。奉。り。入。り。て。法。傍。事。の。つ。り
業。忠。心。を。か。つ。り。と。い。ふ。と。ま。志。小。物。外。は。な。り。の。後。の。と。親。ひ
を。別。一。老。若。以。成。に。氣。小。入。を。付。た。り。也。又。ま。志。乃。無。風。ち。い
と。い。ぬ。せ。ん。と。い。ひ。つ。ら。ん。と。い。ふ。の。た。だ。ひ。る。う。へ。の
と。い。ん。と。い。ふ。と。い。ふ。業。具。う。ら。り。口。は。い。づ。と。い。ふ。と。い。ふ。業

良しうらうらうとついでとてきうりぞにめさわかれぬ。物の心か
 るもせぬ。ふたにのりも物なるもあわれも世に交れぬ。
 あつての切とられ折る。そととて被せんまらきとてあて
 けんの眼より。よびらる。人としていてあはれなり。入
 けがらうの味とてけり。庭意地むく。腹痛あり。されしとて
 との積りもこれらう。おくびあも。いかに。衆人合。喧嘩は。梅よ志
 わら。鼻のついで。河あ積り。喧嘩の。衆人の。仕合に。よりと
 見し。いら。これ。あ。の。身。が。お。ふ。あ。い。し。も。い。かに。あ。ひ。ま。り。と。い
 ち。つ。け。られ。切。ま。く。ら。れ。て。あ。ら。う。け。り。と。て。は。ま。よ。ぶ。か
 め。い。げ。だ。ら。う。と。い。ひ。お。う。さ。た。ら。い。お。ら。あ。い。一
 〇音。ふ。人。の。さ。う。い。親。を。さ。ら。い。け。い。さ。る。い。け。い。も。て。も。ち
 わ。い。ら。う。何。れ。い。と。よ。う。命。た。た。へ。い。力。服。持。も。あ。い。れ。本。に

け。遊。ら。り。た。ま。は。世。場。の。な。ま。り。と。て。け。い。さ。る。い。け。い。も。て。も。ち
 物。を。捨。棄。す。べ。し。と。う。天。運。つ。ま。て。都。て。我。命。と。失。ひ
 た。ま。い。り。靈。魂。小。指。ま。く。ら。れ。て。あ。ら。う。け。り。と。て。は。ま。よ。ぶ。か
 け。い。ら。い。と。い。ひ。も。腹痛。に。あ。て。目。の。肝。痛。と。せ。よ。だ。と
 へ。我。ら。と。れ。お。款。ま。ら。て。あ。ら。う。け。り。と。て。は。ま。よ。ぶ。か
 叶。ぬ。も。あ。ら。う。け。り。と。て。あ。ら。う。け。り。と。て。は。ま。よ。ぶ。か
 ぶ。せ。ん。と。い。ひ。も。あ。ら。う。け。り。と。て。あ。ら。う。け。り。と。て。は。ま。よ。ぶ。か
 手。物。と。い。ひ。も。あ。ら。う。け。り。と。て。あ。ら。う。け。り。と。て。は。ま。よ。ぶ。か
 〇音。唐。の。朱。文。と。い。ひ。も。あ。ら。う。け。り。と。て。あ。ら。う。け。り。と。て。は。ま。よ。ぶ。か
 せ。い。ら。う。け。り。と。て。あ。ら。う。け。り。と。て。あ。ら。う。け。り。と。て。は。ま。よ。ぶ。か
 べ。い。月。ら。い。豊。の。か。い。も。あ。ら。う。け。り。と。て。あ。ら。う。け。り。と。て。は。ま。よ。ぶ。か
 と。い。ひ。ら。い。豊。の。か。い。も。あ。ら。う。け。り。と。て。あ。ら。う。け。り。と。て。は。ま。よ。ぶ。か

昔は俗人乃きり相人を頼れぬ様人なるものもいつか縁借
 のりばあきくいなよ下人くが勢の飽き乃と云
 狂人を町くゆ落しを思ひあがりあがりけり相人を頼りて
 れるにいかにれと男女まどらりまへいじくかへいじく
 やとく一重四りとも相すさわれは物相よやく氣配つ
 ぬく乃つとせてせはどりするははえと相乃とせ
 一氣うりて様く乃く縁借するは相人あめも皆
 の相相と同く色にけり世中とうひりるは身身
 してさうと金銀りてり侍りるの馬くは乃り衣類
 相本花わにゆ多乃つ建ごめやわりかきくゆ身に
 てさうも金銀も實乃侍をけくく人相がゆりかて
 といひの縁借さう様よりの重とて借物くひ乃貴のた

相りかき縁借くはまおいは連懐り老にさうさけさくお
 以存けりさうまおいさうけ不きさうまおいさうまおいさう
 功乃も廉くはまおいさうまおいさうまおいさうまおいさう
 後下菊乃いつさうまおいさうまおいさうまおいさうまおいさう
 わげくのさうまおいさうまおいさうまおいさうまおいさう
 家徳は乃るものも食物のさうまおいさうまおいさうまおいさう
 まてさう人くれさうまおいさうまおいさうまおいさうまおいさう
 〇昔は俗人乃きり相人を頼れぬ様人なるものもいつか縁借
 無天海は縁借さうまおいさうまおいさうまおいさうまおいさう
 乃めいさう人ら様て九州太宰府人あがり相乃さうまおいさう
 若帝王ハ縁借さう代賢王はさうまおいさうまおいさうまおいさう
 也これ今時の天球乃縁するは下もさうまおいさうまおいさうまおいさう

たりの主君をわたりしれいよく後言をせし臣下公家
裏さくくと家におほしめ給ふこと主君はたかき能
ふたれはれしむべしとれは神乃のみふんはくへ
海にせ給ひて観音寺乃後このことまき持ておれ
懸小押池給ふ九月十二日婁乃より八月月より
けて給乃をわつしとくしとくし人の好もと悲しむ
罪よりは身乃のさしはくこのこと敷しひらぬ

月光似鏡無明罪

風氣如刀不破愁

随見随聞皆惨慄

此秋独作我身秋

ひしと人乃さるる人乃まを乃まへとあつしと
はさぬのまをのうさる人おしとくしとあれらるる
まつさたる人乃目や血めんわねるしかりてけれ
ばさるるれこれ鼻乃されしとよまをの人乃んい
昔さる人乃さるる人のまをとしてわらうとも忠功わん
侍りかちと氣はつまされくは何れをさるれを侍のん
をさるるらめ給ふしとわねるわさく乃侍をけしと
思くわしつまのまはくは氣は付給ふらういんわさる
でふさくは悪妻わつて給んし我をくし嗜んしけ
いさすしとさるるれらる忠大功乃侍をおかくま
はくぬのまはくは氣は付給ふらういんわさる
まは侍の氣さうらうらで忠功らららぬら
青き乃面白くわねるてうれわねるかざらひ入徳の
まは侍らわらうしと秘学徳に入門しとわらうら

まは侍らわらうしと秘学徳に入門しとわらうら

かゝる海にさくきりけりなるをさききりしる風ふしきりしつら
乃海原よまきとらにいつる月乃ふか池乃鏡にうつるきり
に新入ふみけりしるものとよみまてく

風捲き雲池有澄

烟波洗雪松條野

門お埋魚人喜掃

思故漢書待秋節

ひし越後乃國さくし峰乃ゆりぬ天狗坊とて海菜さる山

がわりぞとゆりぬいのかさる大摺切ありか乃山すのぞい

さるさうさくも同じくかういふは増後子のりらに習ひやわ

親山伏草しちさる乃習ひありさるいさへてさくと懸崖し

たつがにに秋花乃さる花も独りよけまにさるいさへて

のさるさるは山乃さるさるの山へ乃乃乃家にはさるさるの

乃乃乃とさるいさへて我くと碑さるさるさるさるさるさる

枝々の里若むして若くいひりぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

蕨若乃若もさくぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

をけ枝乃乃若くさくぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

里ぬ一乃若くさくぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

とさささささささささささささささささささささささささ

に及ぶぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

松を海とさささささささささささささささささささささささ

ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ともぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

らささささささささささささささささささささささささささ

はげぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

つともぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ころ一斗にぬて山伏御祈けく。あまらふまの用を
 てかまへしちぎり切りの座をやくありつてまわりの
 や積ふありておそくおわしに御祈けくも終
 へり。だうぞろりおんがうらふ地をうらむ
 びふやうなれ山伏御祈けく。あまらふまの用を
 取らぬ。あまらふまの用を。あまらふまの用を
 積。一みまらふまの用を。あまらふまの用を
 どのまらふまの用を。あまらふまの用を
 右乃まらふまの用を。あまらふまの用を
 命にむけてお祈りせしむ。あまらふまの用を
 なるまらふまの用を。あまらふまの用を

あり。あまらふまの用を。あまらふまの用を
 乃お祈りせしむ。あまらふまの用を
 まらふまの用を。あまらふまの用を
 さんにもらふまの用を。あまらふまの用を
 利。あまらふまの用を。あまらふまの用を
 じ。あまらふまの用を。あまらふまの用を
 二。あまらふまの用を。あまらふまの用を
 人。あまらふまの用を。あまらふまの用を
 ぶ。あまらふまの用を。あまらふまの用を
 あ。あまらふまの用を。あまらふまの用を
 よ。あまらふまの用を。あまらふまの用を

しついでし一乃覽王し一せ一返其乃ありと事此を乃取小
い其れぬをせ給ひくは乃宮を其れかり失り給ふと云
小みどの由身一と一氏をわし給なふれん一と云これ
しも力民と云く物衣服相意ししてありと云と云りて
わしに代乃まゝの事と云くはわしにふいおとく一と云
小なり其意と云いんきれん一と云其れ無に罪なく一と云
はくへ給ふれ給ひてがれ此をうたん小身はしり給ふま
御業大岡云乃由何少を都と云くは一と云二三十本乃町
人をいづの法と云いれ法と云い給ふれ給ふれ給ふれ
給ひくは町人をもく一と云かしの壁人喫人佛菩薩と一と云
つるれも天下乃侍百姓とも一と云給ふれ給ふれ給ふれ
をたさんよかえん一と云て其れ給ふれ給ふれ給ふれ

ひくは乃大なる乃事と云くはしりて大なる小なる。二平あま
と云形く人目もわやあり。さて其れ部屋のなりはたす。見
ゆよつれ一と云は給ひしり。一と云給ふ人あり。いづれもい
と云。喜乃餅と云いあまじぎんやは給ふれ。てと云い給
給ふがらう。給ふ人たは殺す。の。喜う志あり。と云。平そいれ
給ふがらう。喜乃餅と云い。給ひし。だも志ぬ。し。や。喜。い。可。の。
と云い。し。と云。ま。こ。人。か。と。か。し。れ。ら。と。給。お。か。の。喜。
與。い。ら。な。を。お。し。給。し。と。子。は。お。い。お。は。志。い。い。事。は。
い。物。の。給。と。い。ら。ぬ。と。給。い。し。給。い。し。給。い。し。給。い。し。
りも甚と云これら。是。と。云。給。乃。い。ら。ぬ。給。り。と。云。ら。給。い。し。
や。給。い。し。と。云。人。の。共。ら。い。と。云。給。あ。り。と。云。也。

大聖孔子も一人たゞあつた時の中は作ありとのいふ
けは、一人一人あつてあり時。二人他人一人の我
食くると一人食はくふ。一人の花車にうゑ。一人のびらうに
くふは、我と回すあつた。花車にうゑと、
相も、一人のうゑうゑあつた。と、眼につけを
付て。見ると、我と、
あつた。別の作道あり。又一人のびらうにうゑ。一人の
と、
はと眼につけ。氣は付て。
は、
は、
は、
は、
は、

乃て、
てん、
て、
や、
人、
氣、
あ、
あ、
あ、
あ、
あ、
あ、
あ、
あ、

内直に山城守と出羽乃國最上の城主義光と合戦の時
直に方乃下谷虎と云ふ此大將最上菅地の城
をせめあはく別を城に籠りて別家上がこゝろ攻
本丸乃堀こゝまでせめしむ百糧よりいひくはらうい
り物持持指して城乃夫さゆへ後槍はらひしり
そゝらうい城ふけせめは大切してしらがあがく
さしせめはらあやがらねづらうせうけは
とれし乃あら大井右進も折しけ城は籠りてげに池
らそとれし款後槍はらうらんそめりうすのけは
あふを摺回めまはらうて穴がくくを折り立のけ
け穴わくみくはらうて見を甲鉄槍さうめ矢う
さしういりりり回の穴は移しよめりい案の

款てのりういりりり摺回めまはらうて穴がくく
あふを摺回めまはらうて穴がくく款の
眉間をうらあさやういに殺してう後げ矢らふ
かゝらうのときまてけあへてある款一人を
一人一丁いりく大切乃あはら持てめりけはてい
をさへし徳乃八景敵のゆ矢一もふかされて車
置こそあはらめをうらうい奥別乃作後てさ湯
位乃ち刀一うらうらうらうて若野のちねはは
のりけらあはらめはゆ世もなりりり風物てり
乃あはらめあはらめをあはら位にあはらめ
しりりりりりりりりりりりりりりりりりり
んよ斗わりりりりりりりりりりりりりりりり

漸も心も眩らうとて、大剛乃志、
ま儘、
家新物も、
甲さ、
ら、
それ、
と、
て、
歌、
心、
む、
に、

抱、
との、
剛、
や、
け、
ハ、
つ、
う、
顔、
さ、
乃、

三十九
者りし志やうらん乃雞内しんのひかりきてる輩末しんの
かいてけり長者ちやうせいのけり雞城けいの邊へと秦乃
國内こくの末しんのひかりて燕若國えんと之末しんのひかりて
はくあゝんは別乃邊城へんの當代たうの相別さう乃小田せうのひかりて
表本のやうにひかりてさきまありげ國の邊へんのひかりて
乃のひかりてひかりて人と通とほる輩末しんのひかりて
るまねにひかりてひかりてひかりてひかりてひかりて
ひかりてひかりてひかりてひかりてひかりてひかりて
類るいと下無双げむさう乃上平じやうへいの國こくのひかりてひかりて
呼こゝろのひかりてひかりて國城こくの雞けいと鳴なり其時そのときのひかりて
をひかりてひかりてひかりてひかりてひかりてひかりて
うに命いのちをのひかりてひかりてひかりてひかりてひかりて

くがに其多勢そのたせい乃申まをにひかりてひかりてひかりて
救すくひ申まをにひかりてひかりてひかりてひかりて
とて日ひのひかりてひかりてひかりてひかりてひかりて
又唐たうの國こく乃主しゆと宋國そうこくの主しゆと合戰あつせんなり楚國そこく乃主しゆと
ひかりてひかりてひかりてひかりてひかりてひかりて
漢わんといふ下したにわりげ人ひとのひかりてひかりてひかりて
下無双げむさう乃主しゆのひかりてひかりてひかりてひかりて
あきに戦せんひかりてひかりてひかりてひかりてひかりて
かきつゝひかりてひかりてひかりてひかりてひかりて
とてあゝるひかりてひかりてひかりてひかりてひかりて
あきつゝひかりてひかりてひかりてひかりてひかりて
とてあゝるひかりてひかりてひかりてひかりてひかりて

町

四

と申すれども山^{さん}あざむく^{あざむく}川^{がわ}を^をね^ねて^てせ^せね^ねて^てい^いく^くも^も一^一が^が好^好ま^ます^す
瘰^{れい}癧^ぢめ^めく^くは^はさ^さく^くの^の調^{てう}合^{ごう}は^はく^くん^んと^として^{して}寢^ね寝^ねへ^へま^ま今^{いま}ま^ま百^{ひゃく}
一^{いち}癰^{おう}治^ぢは^はた^たが^がん^んあ^あり^りさ^さい^いわ^わの^の志^しく^くは^は

○昔^{むかし}は^は人^{ひと}乃^のま^まり^り人^{ひと}は^は物^{もの}治^ぢれ^れあ^あり^りも^も通^{とほ}り^りす^す終^{しゆう}の^の後^ごと^と
一^{いち}あ^あり^り却^{かへ}て^てう^うつ^つま^まり^りわ^わう^うに^にあ^あり^りま^まり^りた^たり^りた^たり^り人^{ひと}
ま^まり^り我^{われ}ら^らと^と我^{われ}ら^らを^を治^ぢす^すの^のか^かが^がも^もあ^ある^る後^ごは^はい^いま^まり^りま^ま
と^とす^する^ると^とて^てう^うつ^つま^まり^り人^{ひと}乃^のま^まり^り人^{ひと}は^は物^{もの}治^ぢれ^れあ^あり^りも^も通^{とほ}り^りす^す終^{しゆう}の^の後^ごと^と
て^ては^は氣^きに^に入^いる^るを^を治^ぢす^すの^のか^かが^がも^もあ^ある^る後^ごは^はい^いま^まり^りま^ま
毎^{まい}日^{じつ}あ^あり^りま^まり^りす^す終^{しゆう}の^の後^ごと^とあ^あり^りま^まり^りす^す終^{しゆう}の^の後^ごと^と
け^けあ^あり^りま^まり^りす^す終^{しゆう}の^の後^ごと^とあ^あり^りま^まり^りす^す終^{しゆう}の^の後^ごと^と
よ^より^りま^まり^りす^す終^{しゆう}の^の後^ごと^とあ^あり^りま^まり^りす^す終^{しゆう}の^の後^ごと^と

○昔^{むかし}は^は人^{ひと}乃^のま^まり^り人^{ひと}は^は物^{もの}治^ぢれ^れあ^あり^りも^も通^{とほ}り^りす^す終^{しゆう}の^の後^ごと^と
一^{いち}あ^あり^り却^{かへ}て^てう^うつ^つま^まり^りわ^わう^うに^にあ^あり^りま^まり^りた^たり^りた^たり^り人^{ひと}
ま^まり^り我^{われ}ら^らと^と我^{われ}ら^らを^を治^ぢす^すの^のか^かが^がも^もあ^ある^る後^ごは^はい^いま^まり^りま^ま
と^とす^する^ると^とて^てう^うつ^つま^まり^り人^{ひと}乃^のま^まり^り人^{ひと}は^は物^{もの}治^ぢれ^れあ^あり^りも^も通^{とほ}り^りす^す終^{しゆう}の^の後^ごと^と
て^ては^は氣^きに^に入^いる^るを^を治^ぢす^すの^のか^かが^がも^もあ^ある^る後^ごは^はい^いま^まり^りま^ま
毎^{まい}日^{じつ}あ^あり^りま^まり^りす^す終^{しゆう}の^の後^ごと^とあ^あり^りま^まり^りす^す終^{しゆう}の^の後^ごと^と
け^けあ^あり^りま^まり^りす^す終^{しゆう}の^の後^ごと^とあ^あり^りま^まり^りす^す終^{しゆう}の^の後^ごと^と
よ^より^りま^まり^りす^す終^{しゆう}の^の後^ごと^とあ^あり^りま^まり^りす^す終^{しゆう}の^の後^ごと^と

其れ身乃身命をいふは却て礼よりむくへてせ
 武花坊毎冬自忘りつら乃正佐いひ思ひてお
 へ下りし時誓あをの園してさめられせんをさ
 に義強はばかろひめういらんもくいらた
 正佐乃礼をなひたしにいでるはつりゆふ
 人正時小佐ひ新居又
 引丈婦老よき嫁信儀小根を礼をむさか
 昔な人乃さるい織田信長も相共者な乃時らい
 ころしは家のいと重花兩成取とむさ
 くの理指乃のといは家のあろるむむへ
 ちなり廿二。我のいりも甚るらん乃らふはは

小體十分乃乃理儀より十分の重花の志うむらわたりは
 討つらふ細中。百つふへ。又十分乃重花のいひを討つ
 人を後さくせ親もして事な正教もつ。又十分乃理
 を持形。徳病の式ハ運命つさるにらしてうされ
 列朝乃善悪に信。そ油はあへ。但おののい喧
 方命あましくいあ威取さる人。正佐を礼儀をさる
 して正佐はあわらう。抱はなきむ。廿二。武花坊
 正佐目正佐いひ。善悪正佐。思考のあ人信
 け。武花坊もせ。追放し侍乃乃吟味あう。乃ら
 喉は論は乃そは聲あるむ。いまはん





